

阿蘇カルデラにおける構造探査\*  
— 1992年度阿蘇火山集中総合観測 —

Seismic Exploration at Nango Valley, Aso Caldera

京都大学理学部附属火山研究施設  
京都大学理学部地球物理学教室  
北海道大学理学部附属有珠火山観測所  
北海道大学理学部地球物理学教室  
東京大学地震研究所  
九州大学理学部附属島原地震火山観測所  
地球科学総合研究所  
大阪土質試験所

Aso Volcanological Laboratory, Faculty of Science, Kyoto University  
Department of Geophysics, Faculty of Science, Kyoto University  
Usu Volcanological Observatory, Faculty of Science, Hokkaido University  
Department of Geophysics, Faculty of Science, Hokkaido University  
Earthquake Research Institute, University of Tokyo  
Shimabara Earthquake-Volcanological Observatory, Faculty of Science, Kyushu  
University  
JAPEX Geoscience Institute  
Georesearch Institute, Osaka

1992年度阿蘇火山集中総合観測の一環として、阿蘇カルデラ南郷谷で行なった反射法人工地震探査の位置（第1図）とその結果（第2図）を示す。

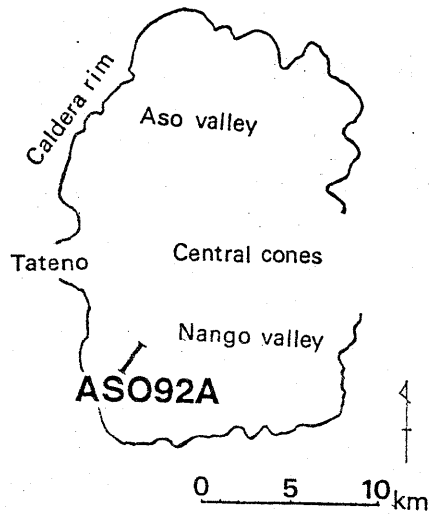
この地下断面では、CDP100付近を境にして反射面の様相が異なり、さらに外輪山側から中央火口丘に向かって深くなる反射面が現われるのが特徴である。

また、不整合面と思われる2つの面（UC1, UC2）が認められる。UC1は阿蘇火山より古い地層とカルデラ形成後の堆積物との境界面である可能性が高く、UC2はカルデラ形成後の堆積物中の不整合面である可能性が高いと考えられる。

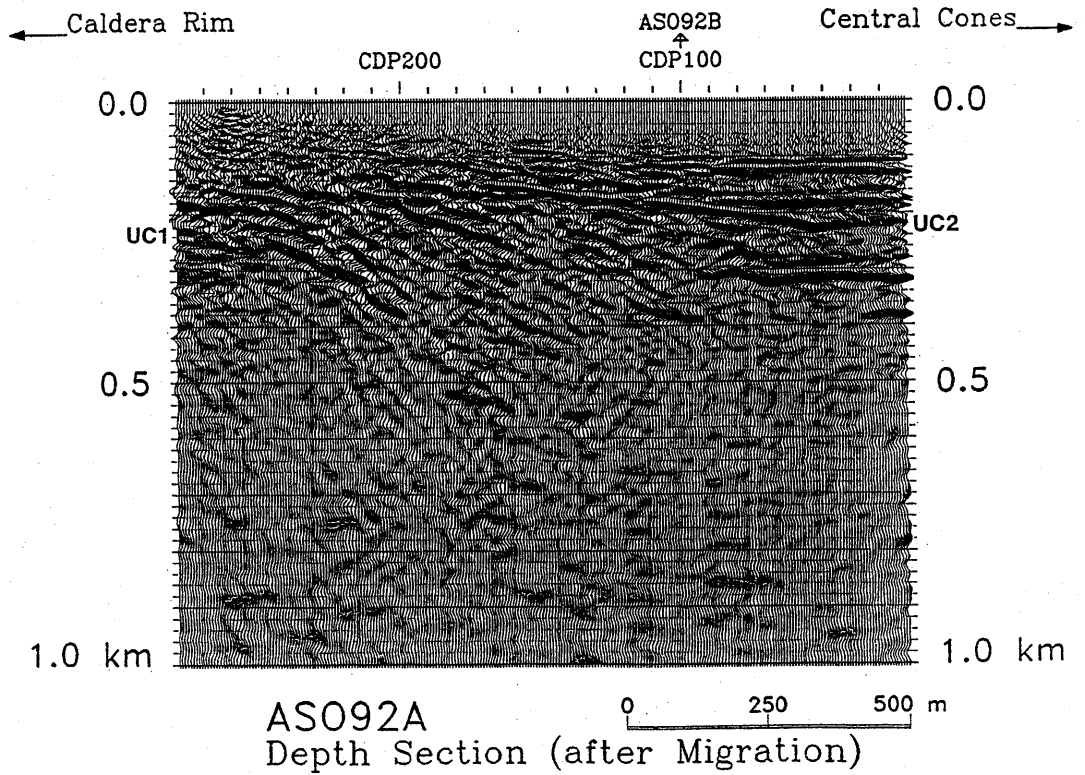
今回の調査では、約500mより深い反射面がいくつか認められるが、あまり明瞭ではない。これより深い場所からの明瞭な反射を期待するためには、人工震源の種類の検討が必要と思われる。

---

\* Received 30 Nov., 1993



第1図 測線の位置  
 Fig. 1 Location of seismic line.



第2図 深度断面図  
 Fig. 2 Depth section